

授 業 概 要

(こども保育科)

| | | | |
|---|---|-------------------|-------------------|
| 授業のタイトル (科目名) こどもの理解と援助 | 授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習) | 授業担当者 | 当該科目に関する実務経験 |
| | | 柳田真理子 | 保育士 |
| | | 鈴木 崇弘 | 臨床心理士 学校カウンセラー |
| 授業の回数 15 回 | 時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位) | 配当学年・時期 2 年・後期 | 必修・選択 必修 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達と保育実践、経験や学習過程の理解、保育における発達援助、子どもの理解に基づく保育実践の中での援助の具体的な方法など習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解に要する、観察・記録・省察・評価等を通じた子どもの発達や内面等に関する実態把握とそれに基づく援助について、実践力を習得する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 ・子どもの体験や学びの過程におき、子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1章 保育の基本と子ども理解 第2章 子どもの発達する姿をとらえる① 第2章 子どもの発達する姿をとらえる② 第3章 子どもを理解するための保育者の援助① 第3章 子どもを理解するための保育者の援助② 第4章 子ども理解の方法① 第4章 子ども理解の方法② 第5章 子ども理解にもとづく保育者の援助① 第5章 子ども理解にもとづく保育者の援助② 第6章 子ども理解と評価① 第6章 子ども理解と評価② 第7章 子育て支援と保育相談① 第7章 子育て支援と保育相談② 模擬試験 期末試験 | | | |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>子ども理解と保育実践 ー子どもを知る・自分を知る (塚本美知子 編著／萌文書林)</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査点 (75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点 (25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 | | | |